

障害を人との違いとして 受け入れ人生に活かす

私は生まれつき二分脊椎症で身体障害者2級です。この病気は人によって症状が大きく異なります。私の場合は障害の部位が腰にあります。そのため、排泄に関する感覚がない、歩き方が不自然などの症状があります。

青年期までは自分の体が好きではありませんでした。しかし、大学生の時にがんを患い、「がんが死ぬかもしれないけど、この障害が理由で死ぬことはない」と考えたのを機に、「この体もアリかな」と思えるようになりました。障害を人との違いとして、人生に活かそうと前向きに捉えられるようになったのです。

私は患者として医療環境をよくしたいと思い、医療者と患者が本音で話せる場としてカフェをつくりました。カフェでは、「医療福祉を語る会」として医療者と患者を集めたり、患者だけで集まるイベントを開催したりしています。これまで、医療者の勉強会や患者会などを通じてつくってきた人脈

を活かして、こうしたイベントを行っています。
患者が発信しなければ、医療者は患者の求める医療を提供できません。患者がもっと発信していけば、変わることがあると思います。そのためにも、自分の病気について学び、主体的に動くという姿勢が望ましいと考えています。

ハンデと
共に
生きる

患者として 医療環境をよくしたい



「お客さん同士をつなぐ」をコンセプトにカフェを経営



カフェで患者や医療者を集めたイベントを多く開催している



市民向けの健康講座にも定評がある

鈴木信行

患医ねっと 代表

すずき・のぶゆき

●神奈川県生まれ。生まれつき二分脊椎症で、身体障害者2級。大学を卒業後、製薬会社に13年勤務。その後、2008年にみのりCafeを開業。11年には、患者の視点から日本の医療をよりよくするために「患医ねっと」を立ち上げ、イベントの企画・運営や講演などを行っている。現在はこれらの活動をしながら、ステージ4のがん患者として加療中。

